

第八十一回帝國議會
衆議院

郵便年金法中改正法律案外二件委員會會議錄(速記)第二回

付託議案
郵便年金法中改正法律案(政府提出、貴族院送出、衆議院送付)(第八十一號)
航空法中改正法律案(政府提出、貴族院送出、衆議院送付)(第八十二號)
本船保險法案(政府提出、貴族院送付)(第八十三號)

昭和十八年二月十五日(月曜日)午前十時三十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 八角 三郎君

理事木原 七郎君

青木 精一君

宇田 耕一君

喜多壯一郎君

下出 義雄君

林 正男君

松浦周太郎君

新井 堯爾君

同月十二日委員牧野良三君辭任ニ付其ノ補闕トシテ新井堯爾君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

遞信大臣

寺島 健君

出席政府委員左ノ如シ

遞信次官

手島 榮君

遞信省總務局長

小林 武治君

簡易保險局長

田倉 八郎君

海務院院長

松木 益吉君

海務院部長

新谷寅三郎君

海務院部長

渡邊 浩君

海務院部長

若林 清作君

航空局長官

山田 良秀君

航空局部長

遠藤 毅君

航空局部長

仁村 俊君

航空局部長

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

郵便年金法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

航空法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

本船保險法案(政府提出、貴族院送付)

〇八角委員長 ソレデハ是ヨリ會議ヲ開キマス、本委員會ニ付託セラレマシタ法案ハ、郵便年金法中改正法律案、航空法中改正法律案、本船保險法案ノ三案デアリマス、是ヨリ遞信大臣ノ本案ニ對スル御説明ヲ伺ヒマス

〇寺島國務大臣 只今委員長カラ御述ベニナリマシタ三ツノ法案ニ付キマシテ、提案ノ要旨ヲ申上ゲマス、先ヅ郵便年金法中改正法律案ノ提出理由ニ付キマシテハ、本會議ニ於キマシテ申述ベマシタガ、茲ニ少シク補足シテ御説明申上ゲタイト思ヒマス

本案ハ我が國ノ經濟事情ニ鑑ミマシテ、最モ緊要デアリマスル長期貯蓄ノ強増ニ資スルト共ニ、國民厚生施設タル郵便年金制度ノ機能ヲ、遺憾ナク發揮セシムルヲ主眼ト致シマシテ、郵便年金ノ最高制限額二千四百圓ヲ、五割増ノ三千六百圓ニ引上ゲヲナサントスルモノデアリマス、郵便年金事業ハ、大正十五年國民厚生施設トシテ創始セラレテ以來、順調ニ發達ヲ遂ゲテ參ツタノデアリマスガ、殊ニ支那事變後ニ於キマシテ、業績ハ飛躍ナル向上ヲ示シテ居リマス、即チ昨年十一月末現在ト致シマシテ、契約總件數ハ百九万五千件年金額ハ一億三千百三十八萬圓、又積立金ハ本年度ノ餘裕金ヲ含メマシテ、六億六千四百七十七萬圓ニ達スル成績ヲ收メテ居リマシテ、加入者ノ生活保護ハ勿論、國家經濟ニ少カラザル寄與ヲ致シツツアルノデアリマス、然ルニ現在ノ年金最高制限額二千四百圓ハ、事業創始當時ヨリ制定セラレタル儘今日ニ及ンデ居ルノデアリマスガ、其ノ間我が國ノ經濟事情ハ變遷致シマシテ、今日ニ於キマシテハ此ノ二千四百圓ト云フ最高制限額デハ國民生活ノ安定ヲ目的トスル本制度ノ機能ヲ十分ニ發揮スルヲ得ナイ狀態ニ立至ツテ居リマス、即チ物價指數等ヲ見マスルモ、事業創始當時デアアル大正十五年ニ比シテ著シク昂騰ヲ示シテ居リ、又最近ニ於キマシテ、高額年金ノ契約ヲ爲スモノガ既ニ相當増加シツツアルト云フ實情カラ見マスルモ、國民ノ將來ノ生活安定ヲ圖ル上ニハ現在ノ制限額ハ稍、低キニ失スル嫌ヒガアルノデアリマス、加之郵便年金ハ比較的多額ノ掛金ヲ以テ極メテ長期ニ互ル契約ヲ爲スモノデアリマシテ、所謂購買力ヲ長期固定資金化スル上ニ最モ勝レタル機能ヲ有スルノデアリマス、幸ヒニ今回ノ改正ガ實現致シマスレバ、之ニ依ツテ本制度ノ機能ヲ益、昂揚セシムルト共ニ、戰時財政經濟ノ運営ニモ多大ノ寄與ヲナシ得ルモノト確信致シテ居ル次第デアリマス

次ニ、航空法中改正法律案ノ提出理由ニ付キマシテ、是モ本會議ニ於テ申述ベマシタガ、茲ニ補足シテ本案ノ要旨ニ付キマシ

テ御説明致シタイト存ジマス、御承知ノ如ク、航空機ハ最モ進歩シタル高速度交通機關トシテ高度ノ文化的、經濟的機能ヲ有スルト共ニ、一朝事アル場合ニ空軍豫備軍トシテモ特殊ノ使命ヲ有スルモノデアリマシテ、殊ニ大東亞建設戰、我が航空力ノ飛躍的增強發展ヲ圖ルコトノ喫緊ノ要事タルコトハ申上ゲルマデモナイ所デアリマス、然ルニ其ノ準繩トモ申スベキ現行航空法ハ、第一次歐洲大戰直後ノ大正八年「パリ」ニ於テ締結セラレマシタ「航空法規ニ關スル條約」ヲ基準トシテ大正十年ニ制定セラレマシタモノデアリマシテ、必ズシモ今日ノ航空界ノ實情ニ即應シ難イ點モアルノデアリマス、仍テ是等ノ點ニ付キ本案ハ必要ナル改正ヲ加ヘマシテ、航空機職員ニ關スル規定、飛行場特別地域ニ關スル規定及ビ航空機使用事業ニ關スル規定ノ整備ヲ圖ラント致シタ次第デアリマス、即チ航空機ノ性能ノ向上、特ニ其ノ大型化、輸送距離及ビ輸送量ノ増大等ノ趨勢ニ鑑ミマシテ、從來乗員トシテ取扱ハレテ居リマシタ航空機操縦士、航空士及ビ航空機機關士ノ外ニ、新タニ航空機運航ヲ指揮スル責任者タル航空機長、及ビ航空ノ安全保持上重大ナル使命ヲ有スル航空通信士及ビ航空機整備士等ヲ加ヘマシテ之ヲ航空機職員トシ、法律上其ノ資格及ビ地位ヲ明定致シマシテ、以テ航空機運航能率ノ増進並ニ航空事故防止ヲ期スルコトト致シタノデアリマス、飛行場周圍ノ特別地域ニ關シマシテハ、航空機ノ

大型化及び高速化並ニ盲目著陸施設ノ發達等ニ順應致シマシテ、現在ノ千「メートル」ノ限界ヲ、安全保持上特別ノ必要アル場合ニ於テハ二千「メートル」マデ擴張指定シ得ル如ク改正致シマス同時ニ、從來公共用飛行場及軍用飛行場ノミニ適用ヲ認メラレテ居リマシタ特別地域ヲ、乘員養成所附屬ノ訓練用飛行場及航空機製造會社附屬ノ試驗用飛行場ニモ、必要ニ應ジ適用シ得ルヤウ改メントスル次第デアリマス、航空機使用事業ニ關シマシテハ、從來航空機ヲ使用シテ營業事業ノ中、運送營業ニ關シテノミ、之ヲ許可制トスル規定ガ存シテ居ルノデアリマスガ、航空ノ發達ニ伴ヒマシテ、運送事業ノ外ニ航空寫眞、測量事業及ビ魚群探見事業等、航空機ヲ使用シテ營業事業ガ出現致シテ居リマスノデ、是等ノ事業ヲ航空主管廳ノ監督下ニ置イテ、國防上及ビ航空保安上必要ナル取締ヲ厲行致シマスルト共ニ、ソノ堅實ナル發達ヲ助長スル必要ガアリマスノデ、一般ニ航空機ヲ使用シテ營業事業ヲ許可制ノ下ニ置カントスルモノデアリマス

最後ニ木船保險法案ノ要旨ヲ申上ゲマス、大東亞戰爭勃發以來海運ノ擔フ使命ハ愈々重キヲ加ヘマシテ、今や海上輸送力ノ如何ガ戰局ヲ左右スト申シマシテモ敢テ過言デハナイノデアリマス、是ガ爲メ政府ニ於キマシテハ、船腹ノ擴充ト運航能率ノ向上ニ全力ヲ傾倒シテ參ツタノデアリマシテ、即チ船腹ノ擴充ニ付キマシテハ、外國船ノ備購入、拿捕船ノ利用、沈没船ノ引上利用等ノ施策ハ固ヨリ、極力新船建造ノ促進ヲ圖リ、又運航能率ノ向上ニ付キマシテハ、港灣荷役力ノ増強、機帆船ノ計畫輸送、海陸輸送

ノ調整、船舶滿載吃水線ノ引上、検査期間ノ延長等凡ユル方途ヲ講ジテ只管輸送力ノ増強ニ努メ來タツタノデアリマスガ、戰局ノ進展ニ伴ヒマシテ、作戰上ヨリモ將又生産力増強上ヨリモ、船舶ノ必要性ガ愈々痛切ニ要望セララルニ至リマシタノデ、之ニ應フル爲ニハ、造船方面ニ於テハ鋼船建造ト併セテ木船ノ大量建造ヲ促進スルト共ニ、運航方面ニ於テハ、鋼船積物資ヲ可及の木船積ニ振替ヘル必要ヲ生ジ、木船建造ノ促進ニ木船海運業ノ振興ハ現下喫緊ノ要務トナツテ參ツタノデアリマス、元來海上保險制度ハ平時ニ於キマシテ海運ノ經營ト密接不可分ノ關係ニアリマシテ、海上保險制度ノ適否ハ直チニ船舶ノ運航、延イテ船舶ノ建造ニ重大ナ影響ヲ與ヘルモノデアリマス、然ルニ木船ノ目的トスル、我が國海上保險制度ノ現狀ハ、極メテ不備デアリマシテ、保險金額ハ保險價格ノ六割五分以内ニ、又填補範圍ハ全損及救助費ニ限定サレ、而モ保險料率ハ鋼船ニ比シ遙カニ高率デアリマス爲メ、保險ヲ附ケテ居ルモノハ頗ル少イ實情デアリマス、此ノ狀態ニ於キマシテハ政府ノ意圖スル木船ノ計畫配船及ビ木船ノ大量建造ニ重大ナル障礙ヲ及ボス虞ガアルノデアリマス、本案ハ斯ル障礙ヲ免除シ、以テ木船運航上ノ不安ヲ除去シ木船建造ヲ益、活潑ナラシメントスル趣意ニ基クモノデアリマシテ、本案ニ依ル保險制度ノ概要ハ、第一ニ經營形態デアリマスガ、本制度ガ強制保險ナル關係上、保險會社ヲシテ經營セシムルヲ適當トスルノミナラズ、木船ノ如ク全國各地ニ分散シ地方的運航ニ從事スル特殊ナモノニアリマシテハ海上危險ニ付キ相互ニ監視セシムルヲ得策ト

シ、又海運組合法ニ依ル機帆船海運組合ノ如キ既存ノ統制團體ヲ極力利用スルコトヲ最モ適當ト致シマスノデ、木船保險事業ノ經營ハ木船ノ船主ノ相互保險組合ヲシテ行ハシメントスルノデアリマス、此ノ保險組合ハ内外地ヲ通ジテ一個ト致シマスガ、之ハ元來保險制度ガ、大數計算ニ依リ危險ノ分散ヲ圖ルコトニ基クモノデアアル點カラモ適當ノコトヲ考ヘルノデアリマス、尙此ノ組合ハ極メテ公法的色彩ノ濃厚ナルモノナラシメ、政府ノ強力ナル監督ニ服セシメマスルト共ニ、之ニ公法的の權限ヲ與ヘ且ツ政府ニ於テ組合ノ事務費ノ一部ヲ補助シ免稅ノ特典ヲモ與ヘルコトト致シテ居ルノデアリマス、第二ニ保險ノ目的ハ船舶法ニ依ル登錄ノ關係上、原則トシテ總噸數二十「トン」以上ノ木船ト致シマシタガ、此ノ外必要ナル木船ハ主務大臣ノ指定ニ依リ保險ノ目的タルコトヲ得ルヤウニ致ス考ヘデアリマス、而シテ是等保險ノ目的ノ中、一定「トン」數以上ノ船舶ハ普通保險ノ付保ヲ強制スル豫定デアリマシテ、差當リ機帆船統制ノ現狀ニ鑑ミ總「トン」數七十噸以上ノモノニ付キ付保ノ強制ヲ實施スル所存デアリマス、第三ニ保險金額ハ保險價額ノ全部ト致シマス、填補範圍ハ現在保險會社ニ於テ行ツテ居リマスノハ全損及ビ救助費ニ限ラレテ居リマスノハ擴張シテ、全損、分損、救助費、共同海損及ビ衝突賠償ニモ及ボシ、船主ノ保護ヲ厚クシ、安シテ計畫輸送ニ從事セシムルヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、保險料率ハ船種、船齡、航行區域等ニ依リ多少ノ高低アルハ免レマセヌガ、政府ニ於テ組合事務費ノ約半額ヲ補助スル見込デアリマシテ、可及的低廉ナル適正料率

ヲ設定スル所存デアリマス、最後ニ再保險デアリマスガ、普通保險ニアリマシテハ組合ノ引受ケタル元受保險金額ノ九割、戰爭保險ニアリマシテハ元受保險金額ノ全部ニ付キ國營再保險ヲ行ハントスルノデアリマス以上三案ヲ何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラントヲ切望致ス次第デアリマス

○八角委員長 是ヨリ質疑ニ入りマス、近藤英次郎君

○近藤委員 航空法ニ付キ二、三質疑ヲ致シタイト思ヒマス、今大臣ノ説明ニ依リマスト、航空機ハ一朝事アル場合空軍豫備軍トシテ特殊ノ使命ヲ有スト云フコトデアリマシタガ、モウ今日ハ一朝事アツテ居ルノデアリマシテ、今日ハ所謂特殊使命トシテ全部徵用サレテ居ルノデヤナイカ、私ハ詳シイコトハ存ジマセヌガ、所謂空軍豫備軍トシテ特殊ノ使命ニ從事シテ居ルデヤナイノデアリマス、ソレニ付テ大體ドウナツテ居ルカ、第一點ハソコノ所ヲ伺ヒマス

次ニ、私ハ此ノ間衆議院カラ南方ニ派遣サレマシテ約「一萬」キロノ船旅、「一萬一千」キロノ空ノ旅ヲヤツテ參リマシタガ、此ノ空ノ旅デ氣ガ付イタコトハ、ドウモ搭乗員ガ疲勞シテ居ヤセヌカト云フコトデアリマス、私モ長ク航空關係ニ居ツタノデ分ツタノデアリマスガ、其ノ搭乗員ノ中ニハ、會テノ私ノ部下ガ相當居リマシテ、話ヲ聽イテ見マスト、長時間高々度ノ飛行ガ相當長ク續クノデ、搭乗員ハ知ラズ識ラズノ間ニ航空病ニ罹ツテ居ル、非常ニ老練ナル搭乗員デアリマスガ、サウ云フコトヲ言ツテ居リマス、此ノ戰ニナツテカラ所謂特殊ノ使命ヲ持ツテ連續非常ナ無理ナ勤務ヲ疲勞シテ居ハシナイカト云フ私共ノ懸念デアリマスガ、此ノ實情

ハドウ云フモノデアルカ、サウ云フコトニ
關聯シマシテ、航空機職員ノ優遇法ハド
ナ狀況ニナツテ居リマスガ、船員ノ優遇法
ハ盛シニ論ゼラレテ相當ナ程度マデ行ツテ
居ルノデアリマスガ、航空機ノ方ハドウ云
フ狀況ニアルノデアリマセウカ、モウ一ツ
ハ今後ノ航空機ノ乗員ノ養成方針ハドウデ
アルカ、今申サレタヤウナ將來雄大ナ發達
ヲシナケレバナラヌ一番大事ナ本ヲ成ス所
ノ乗員ノ養成ハドウスル積リデアルカ

次ニ、此ノ間モ豫算委員會ノ席上デ松永委
員ノ質疑デアツタト思ヒマスガ、米國デドハ
大型機ヲ以テ輸送能力ヲ發揮シテ居ル、重
要物資ノ輸送ハ今申サレタヤウナ船舶ニ依
ラナケレバナラヌコトハ當然デアリマスガ、
之ニ付テ同時ニ航空機ニ依ル所ノ重要物資
輸送ト云フコトハドウ云フヤウニ考ヘテ居
ラレルカ「ベルトコンベア」詰リ連續飛行機
ヲ利用スルナラバ、相當多量ノ重要物資ガ
循環出來ルノダト云フ風ニ吾々ハ考ヘテ居
ルノデアリマスガ、ソレ等ニ對スル政府ノ
御考ヘハドウデアルカ

次ニ伺ヒタイノハ法文ノコトニ關係スルノデア
リマス、航空機ハ船舶ト同様ニ國際性ヲ持ツテ
居ルノデアリマスガ、國家標識ノコトヲ指定ス
ル必要ハナイデアラウカ、是ハモウ既ニヤラ
レテ居ルコトデアツテ、之ヲ法文化スルカ
ドウカト云フ問題ニナルト思ヒマス、船舶
法ニハハツキリ國旗ヲ掲ゲルト出テ居ルノ
デアリマスガ、航空法ニモサウ云フ明文ヲ
必要トシナイデアリマセウカ

ソレカラ航空機長ト云フモノヲ船長ノヤウ
ニ——船長ハ甲種船長、乙種船長トアツテ、其
ノ都度任命サレテ行クノデアリマスガ、航空機
長ト云フモノヤハリサウ云フ工合ニ行クノデ

アリマスルカ、モウ一ツ航空機長ノ職責ハ
十七條ノ三、四、五、六ニ明記シテアリマ
スルガ、之ヲ讀ンデ見マスト、ドウモ大體
飛行中ノコトニ限定サレテ居ルヤウニ見エ
ルノデアリマスガ、飛行機ト云フモノハ飛
ンデ居ル時バカリデナク、地上ニ在ル時モ
相當責任ヲ持タセナケレバナラナイノデア
リマシテ、飛行場ニ於ケル場合ノ職責ニ關
シテモツトハツキリサセテ置クコトガ必要
デハナイカト云フ風ニ感ジタノデアリマス、
少シ此邊ハ細カイノデ恐入リマスガ、大體
以上ノ諸點ニ付テ御答辯ヲ御願ヒ致シマス

○寺島國務大臣 航空機ノ特殊性ニ付テ御
話ノアリマシタコトハ其ノ通りデアリマシ
テ、現下既ニ一大決戦期ニ入ツテ居リマス、
隨テ特殊任務ニ就イテ居リマス、其ノ現狀
ハドウカト云フコトニ付キマシテ、極ク大
體ヲ申上ゲマスレバ、民間飛行機ノ殆ド全
部ヲ擧ゲテ軍ニ協力ヲ致シテ居リマス、即
チ軍ノ方ノ徵用機ニナリ、或ハ軍ノ定期ト
云フコトニナリマシテ、ソレ等ノ乗員ハ皆
軍屬トシテ勤務ヲ致シテ居リマシテ、全力
ヲ擧ゲテ作戰ニ協力スルト共ニ、又航空輸
送ト云フ重大任務ヲ今日ハ軍ノ方ヲ主トシ
テ之ニ殆ド全力ヲ擧ゲテ居ル次第デアリマ
ス、其ノ詳細ハ今此處デ申上ゲルコトハ避
ケタイト思ヒマス

ソレカラ長距離、長時間ノ飛行ヲスルカ
ラ搭乗員ガ疲勞スル、斯ウ云フ御話デアリ
マス、是ハサモアルベキコトト思ヒマスガ、
船舶ニ於キマシテモ乗員ノ疲勞ト云フコト
ヲ考慮致シテ居リマスト共ニ、航空機ニ於
キマシテモ同様デアリマスガ、是ハ今同提
案シマシタ航空機ノ職員ノ制度ヲ明カニシ
マシテ、機長ト云フモノノ責任ヲ設ケ、是

デ適當ナル處置ヲ講ジテ行クコトニ依ツテ、
又若干ハ救ハレル譯デアリマス、又現在長
距離飛行ヲヤツテ居リマスノハ、先程申上
ゲマシタヤウニ軍ノ方ノ徵用或ハ定期トナ
ツテ居リマスノデ、此ノ點ニ付キマシテハ
軍ニ於テモ考慮セラレテ居ルコトト存ジマ
ス、左様御承知ヲ御願ヒ致シタイト存ジマス
・待遇ニ付キマシテノコトハ、是ハ御存ジノ
通り航空機乗員ノ方ハ一般ノ給與ノ外ニ、
時間ヲドレダケ飛ンダカト云フ航空距離ニ
應ジテノ加俸ト申シマスガ、給與ヲ合セ支
給致シテ居ル次第デアリマス

尙ホ養成方法ハドウシテ居ルカト云フ御
尋ネデアリマスガ、是ガ最も重大ナル問題
デアリマス、飛行機ノ方ハ設備ト資材ガア
リ、又之ニ人員ヲ加ヘレバ相當短期間ニ多
數ノ製造ガ出來マスガ、乗員ニ付マシテ
ハ非常ナル苦心ヲ要スルノデアリマス、遞
信省ト致シマシテハ現在ノ地方養成所十一
箇所アリマス、今年度十五箇所ニ擴張致
シマスガ、尙ホ今日ノ現存スル設備ニ於キ
マシテモ、許ス限り少々ノ無理ヲシテデモ
入レラレルダケノ養成員ノ増加ヲ圖リ幸ヒ
ニシテ其ノ應募者ハ適當ニ得ラレテ居ルノ
デアリマス、斯様ナ方法デ以テ多數ノ者ヲ
養成致シテ居リマシテ、此處ヲ卒業シマス
レバ二等飛行機操縦士、二等航空士ノ免狀
ヲ貰ヘル譯デス、尙ホソレカラ一箇年中央
養成所、今御存ジノ通り松戸ニアリマス
ガ、是モ出來ルダケ人ヲ殖ヤシテ居リマス、
又此ノ外ニ水上機ノ福山ノ中央養成所、又
今年度中ニ長崎ノ養成所ヲ擴充シマシテ此
處ニモ中央養成所ヲ置ク、是等ヲ出タ人ハ
一等飛行機操縦士、一等航空士等トナリ、
或ハ是等ノ中ノ搭乗員トナルベキ人ノ、今御

話ノアリマシタヤウナ遠距離、長距離、或ハ
國際的性質ヲ帶ブル、斯様ナモノニ行クノ
ニハ、從來ノ如キ一年教育デハ足ラヌト云
フモノニ付キマシテハ、三箇年教育ヲシテ
斯様ナル立派ナ航空要員トシテ其ノ素質ヲ
向上サシテ行ク方途ヲモ講ジテ居リマス、
又中央養成所ニ於キマスル機關部ノ教育期
間ガ短カカツタノデ、之ヲモ延長致シテ目
的ニ副フヤウニ企圖致シテ居リマスガ、今
日ハ其ノ大分ヲ擧ゲテ軍ノ方ニ供給致シテ
居ルノデアリマス、尙ホ是ダケデハイカヌ
ノデ、急速養成ノ設備モ致シテ居リマス
シ、又一般的ニ國民全體ガ子供ノ時カラ飛
行機ニ對スル認識ト、又或ル豫備的ノ鍊成ヲ
致ス必要ガアリマスルノデ、國民學校ノ生
徒ニ付キマシテハ模型飛行機ニ依リ、中等
學校程度ノ青年層ニ於キマシテハ滑空機ニ依
リ——所謂「グライダー」デアリマス、又專門
學校以上ノ人ニハ、一部ハ操縦術、又ハ航法、
整備ノ方ヲモ研究致サセマシテ、是ハ主ト
シテ大日本飛行協會ガ當ルコトニナツテ居
ルノデアリマスガ、此ノ指導ハ航空局ニ於
テ行ツテ居ルノデアリマス、斯様ニシテ國
民多數ノ人ニ航空知識ヲ擴メマス、一例ヲ
申上ゲマスレバ、滑空機デ十分ナル稽古ヲ
シテ置ケバ、本當ノ飛行機ノ操縦時間ハ半
分以內デ済ムト聞イテ居ル位デアリマス、
又滑空機ナラバ燃料モ殆ド要ラナイト云ツ
テ宜イモノガ大部分デアリマス、斯様ナ風ニ
シテ今日我が國民ノ航空乘員養成ハ目下ト
致シマシテハ設備ノ許ス限り出來ルダケ人ヲ
澤山採リ、又臨時養成員ヲ採ツテ、是等ノ
人ノ補充ヲシテ居リマス、又敵國ガ大型飛
行機ヲ以テ、人ノミナラズ、重要物資モ運
ンデ居ルト云フコトデアルガ、是等ニ付デド

ウ考ヘテ居ルカト云フヤウナ、物資ノ輸送ニ付テノ御質問デアリマスガ、御説ノ通り重量物資ハ、大型ノモノハ船舶、將來ハ必要ナル重量物資モ場合ニ依ツテハ航空機運バナケレバナラヌト思ツテ居リマス、只今此ノ方ハ先程申上ダテ通り軍ノ方ニ全力ヲ擧ゲテ供給致シテ居リマス、又其ノ補充ニ付キマシテモ、軍ニ於テ十分ノ好意ヲ持チ、連絡ヲ密ニシテ行ツテ居ル次第デアリマス、徽章ハ旗ヲ掲ゲテ居ルコトハ適當デナイ、デゴザイマスカラ、今機體其ノモノニ徽章ニ準ズル「マーク」ヲ附ケテ居ル現狀ト存ジテ居リマス

ソレカラ機長ノ今度ノ職制ニ於ケル職務ト、機上デヤツテ居ル飛行長ノ職務トドウカト云フコトデアリマス、今回此ノ改正法律案ニ於キマシテハ、機長ハ主トシテ飛行中ノコトニ付キマシテ、從來是等ノ爲ニ缺陷ノアル所ヲ補ヒ、是等ノ支障ヲナカラシメル爲ニ、其ノ職權ヲ與ヘテ居リマシテ、法案ノ中ニアル條文等ヲ規定シテヤウナ次第デアリマス、尙ホ詳細ニ付キマシテハ、政府委員ヨリ御答辯致シマス

○山田(長)政府委員 只今大臣カラ御説明ガアリマタノデ、殆ドソレ盡キテ居ルト存ジマスガ、私カラ念ノ爲ニ一、二ノ點ヲ補足シテ御説明致シタイト思ヒマス、飛行機ニ國家標識ヲ附ケル問題ニ付キマシテハ、是ハ航空法規ニ關シマスル國際條約ニ基キマシテ、現在航空法ノ第九條ニ、航空機ハ國籍記號或ハ登録記號等ヲ附セヨト云フコトニナツテ居リマス、ソレニ依ツテ附ケテアル次第デアリマス、ソレカラ航空機長ハ船長ニ於ケルガ如ク或ハ甲種、乙種ト云ツタヤウナ意味ノ區別ガアリハシナイカ、

左様ナ御質問ガアツタヤウニ存ジマスガ、是ハマダ色々ト研究ヲ致シテ居リマスガ、大體ニ於キマシテ御説ノ通りニ航空機ノ大小、又航空ヲ致シマスル距離ノ長短、或ハ晝夜ノ區別、或ハ乗セルモノガ旅客ヲ乗セルカ、或ハ貨物ヲ載セルカ、サウ云ツタヤウナ點ヲ考慮致シマシテ、甲種機長、乙種機長ト云フヤウナ工合ニ區別ヲシテ資格ヲ決メルベキデアラウト云フコトデ、目下左様ナ方針ニ基キマシテ施行規則ノ内容ヲ檢討中デゴザイマス、ソレカラ航空機長ノ職責ニ付キマシテハ、主タルモノハ飛行中ノ運航ノ安全ヲ保持スル責任ヲ負ヒ、同時ニ航空機内ニアリマス者ヲ指揮統率スルコトデゴザイマスガ、殆ンド其ノ大部分ハ航空機長ノ任務ハ飛行中ニ於ケル職務デアリマス、併シナガラ航空機長トシテノ任務ガ、着陸ヲ致シマシタ場合ニソコデ消滅シテシマフ譯デハアリマセヌノデ、着陸ヲシテ居リマスル場合ニ於キマシテモ、職員等ヲ指導スルト云フコトハ勿論アリ得ルコトデアリマス、唯飛行機其ノモノノ離着陸等ニ付キマシテハ、現在飛行場使用規則ニ依リマシテ當該飛行場長ガ之ヲ指揮スルコトニナツテ居リマス、左様ナ多少ノ區別ガゴザイマスガ、航空機長ノ任務ハ機上タルト又地上タルト別ニ區別スル意味合デアリマセヌ、左様御承知ヲ願ヒマス

○最上委員 私航空問題ニ付テ一、二御質問シテ見タイト思フデアリマス、現在大日本航空會社ノ定期航路ハ滿洲ニ於テハ新京ソレカラ北京、南京及ビ「パオ」、更ニ佛印、「タイ」マデ下ツテ居ルヤウニ記憶シテ居ル、支那事變並ニ大東亞戰爭勃發後只今大臣ノ仰シヤツタ如ク多少此ノ間ニ於テ

變更ガアツタト思ハレマスガ、將來南洋諸地域ノ軍政確立後ニ於テハ、勢ヒ是等民間航路ヲ南方ニ伸バサナケレバナラス、少クモ將來昭南島マデ伸サナケレバナラスト云フコトハ定評デアアル、今日軍政治下ニアリマスカラ、其ノ邊ハ如何カト思ヒマスガ、將來是等航路ヲ南方諸地域ニ伸バスト云フヤウナ御考ヘガアルカ、更ニ吾等ガ考ヘルニハ是等東亞共榮圈内ニ於ケル所ノ民間ノ一大航空會社デモ建設シナケレバナラスト思ハレルノデゴザイマスガ、是等ニ付テ當局ハドウ云フ御考ヘデアリマスカ、先ヅ此ノ一點ヲ御伺ヒ致シタイ

○寺島國務大臣 今マデ日滿支及ビ「パオ」島マデ定期航空ガ出デ居ツタ、其ノ中ニ戰爭ニナツタト云フ御話デアリマスガ、此ノ大戰爭ニナリマス前ニ既ニ「チモール」マデ日航ノ定期航空路ハ擴張サレタデアリマス、然ルトコロ此ノ大戰爭ニナリマシテ、先程來申上ゲマス通り殆ンド全力ヲ擧ゲテ軍ノ方ノ徵用機トナリ、或ハ運轉機トナツテ居リマシテ、御説ノ如ク現在ニ於キマシテモ軍ノ方デ扱ツテ居ラレマスガ、洋上モ陸上ノ方モ、昭南島ソレ以南マデモ是等ノ民間飛行機ガ軍ノ指揮ノ下ニ活動ヲ致シテ居ルデアリマス、而シテ將來南方ニ對シテドウスルカト云フ御尋ネニ付キマシテハ、曩ニ大東亞會議會ノ交通部ニ於キマシテ議決致シマシタル如ク、大東亞圈ノ航空路ノ幹線ハ我が國ニ於テ之ヲ把握スル——今日ニ於キマシテハ日航ガ其ノ中心デアリマスガ、斯様ナ風ニ計畫ヲ立テマシテ、作戰ノ都合上御差支ヘナイト云フ時ニナリマスレバ、直チニ左様ナ方法ニ取ツラフヤウニ準備ヲ進メテ居ル次第デアリマス

○最上委員 大體御話デ分リマシタガ、大日本航空會社ヲ主トシテ是等ノ地域ニ定期航空路ヲ開設スルト云フコトデアリマスレバ、是等大日本航空會社ノ組織其ノ他資本金等モ増額スルヤウナ結果ニ相成ルデアリマスカ、目下サウ云フヤウナ資本金ノ増額トカ或ハ機體ノ擴大ト云フ御考ヘハナイノデアリマセウカ

○寺島國務大臣 幹線ハ主トシテデハナク日本ガ把握スル、其ノ把握スル時ニ何處ガヤルコトニナルカト言ヘバ、主トシテ今日ノ日航デアルト存ジマスガ、併シ其ノ資本ヲ増額スルカ、機體ヲドウスルカト云フコトニナリマス、目下ノ狀況ニ於キマシテハ、新シク大型優秀機ノ試作ヲモ既ニ命ジタヤウナ次第段々ト進ミ、又現在ノ補充ト云フコトモ軍ノ方ノ委託調辦ニ依リマシテ之ヲ行ヒツツアルノデアリマスガ、今差當リ資金ヲ擴大スルト云フ計畫ヲ確定ハ致シテ居リマセヌケレドモ、何レシナケレバナラスコトト考ヘテ居リマス、又機體ニ付キマシテハ、之ニ先ンジテ、目下ノ軍ニ全ク協力シ得ルト云フ建前ニ即應スルヤウニ、過日航ノ機體ヲ改正致シタ次第デアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○最上委員 最後ニ是ハ政府委員ノ方デ宜イノデスガ、實ハ我が國民ハ最近成層圈内操縱飛行機ニ付テ非常ニ關心ヲ持ツテ居リ、現ニ豫算委員會等ニ於テハ、松永委員ガ色々我が國ノ成層圈飛行機ニ付テ質問サレマシタガ、私ハ勿論我が國ノ成層圈飛行機ノコトハ聽キマセヌ、唯敵國ノ英國、特ニ聞ク所ニ依レバ、米國等ニ於テハ從來カラ是等成層圈操縱飛行機ノ建造ニ付テ非常ニ研究セラレ居ルガ、マダ眞ノ成層圈操縱飛

行機ハ完成シナイヤウデアリマス、唯聞ク
所ニ依ルト、既ニ「ボーイング」三百七型デ
アリマセウカ、亞成層圈旅客飛行機ガ完成シ
テ居ル、其ノ他「ダグラス」トカ「カーチス・
ライト」等ニ於テハ亞成層圈飛行機ノ完成
ヲ見タヤウナコトガアルサウデアリマスル
ガ、是等ニ付テ、成層圈デナクテモ宜イ、
其ノ次ノ亞成層圈ノ飛行機ニ付テ、ドウ云
フモノガ製造ニ着手サレテ居ルカ聴キタイ
ト云フ聲ガ多イサウデアリマスカラ、ソレ
ニ付テ差支ヘナイ範圍ニ於テ御答辯ヲ願ヒ
タイ

○仁村政府委員 只今成層圈飛行機ノ問題
ニ付キマシテ御話ガアリマシタガ、外國ノ
事情ハ今日中々入りマセヌノデ、結局皆サ
ンガ御承知ニナツテ居ル程度以上ニハ出ナ
イ實情デアリマスルガ、私ガ記憶シテ居リ
マスルモノヲ申上ゲマス、先程申述ベマ
シタ「ボーイング・ビー」十七「イー」型ト云
フノガ亞成層圈飛行機デアリマシテ、大體
其ノ上昇限度ハ一万二千五百「メートル」デ
アリマス、其ノ他數字ハハツキリ致シマセ
ヌガ、「ドイト」ノ新シキ偵察機ガ歐洲ノ戰
場デ一万四千「メートル」位ノ所ヲ飛ンデ行
ツテ、敵ノ妨害ヲ受ケズ悠々トシテ任務ヲ
達成シテ居ルト云フ情報ガ入ツテ居リマ
ス、一應調べマシタ所、マダドウ云フ飛行
機デ、ドンナ性能ヲ持ツテ居ルカト云フコト
ハ確カニ分ツテ居リマセヌ、恐ラク一万四
千「メートル」ハ感ジデアツテ、亞成層圈飛
行機程度ノモノデハナイカト私ハ想像シテ
居ルノデアリマス

次ニ日本ノ狀況デゴザイマスガ、是ハ先
般技術院總裁ヨリ御述ベニナリマシタヤウ
ニ、今一寸發表致シマスコトハ差控ヘテ置

キタイト存ジテ居リマス、唯今日各國トモ
此ノ問題ガ重要視セラレテ居ルコトハ申ス
マデモナイノデアリマスカラ、其ノ邊ノ所
ヲ御考ヘニナツテ戴キマスレバ、多少御判
斷ガ付クコトカト思ヒマス

○最上委員 私ハ海運ニ關スルコトヲ殘シ
マシテ、飛行機ニ關スルコトハ是デ終リマ
ス

午前十一時二十分散會

昭和十八年二月十七日印刷

昭和十八年二月十八日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局